



地域の救急医療の一翼を になって

当院では平成5年から平成10年までの改築で救急外来の整備も行われ、その間（平成9年8月）に二次救急病院として東京都から告示を受け、地域に密着した救急をめざして体制を整えてまいりました。

Contents

- ・地域の救急医療の一翼を
になって
救急診療委員会委員長
小山 広人
- ・中央検査室の紹介
中央検査室技師長 高橋 弘
- ・栄養管理室の特徴
栄養管理室長 足立香代子

病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。

平成18年3月1日
せんぼ東京高輪病院



AED



救急医療室

せんぼ東京高輪病院

救急診療委員会委員長
管理部長

こやま ひろと
小山 広人



受け入れ体制の整備

時間内・日勤帯の体制としては、最も需要の多い内科では救急担当を1名配し、その他の科では各科外来で対応しています。日勤帯での救急患者の来院のルートとしては、3系統があり、通常の直接受診、救急車での搬送、地域医療連絡室を通じてのご紹介によるものです。平成17年度で見ると、時間内の救急隊の搬送は973件、うち入院となったものが334件(34%)でした。科別に見ますと、時間内の救急隊搬送は、内科197件・整形外科211件・脳外科149件で、この3科で80%を占めていました。

時間外・休日の体制としては、当直医として内科系1名、外科系に1名、さらにICUでは脳外科あるいは心臓血管外科1名が毎日当直しており、毎日計3名の医師がこれにあたっています。外科系当直には、一般外科・整形外科に加えて、日によっては泌尿器科・眼科・婦人科・耳鼻咽喉科・皮膚科も参加しております。これら専門診療科目の時間外・休日での需要も平成17年度で見ますと345件と少なくないようです。さらに外科・脳外科・心臓血管外科・麻酔科ではオンコール体制をとっており、当直日以外の緊急検査や手術にも対応するようにしています。これら医師当直に加えて、看護師および師長または主任が計2名、放射線科技師、臨床検査技師、薬剤師が各1名、事務当直2名の計10名のスタッフが救急専任として当直しております。このように人員を配置して、緊急内視鏡、CT・アンギオや緊急手術、緊急採血検査、そして薬剤の処方にも万全を期しています。

とくに循環器内科(出川副院長)は東京CCUネットワークに参加しており、緊急の心臓カテーテル、インターベンションにも対応しています。CCUネットワークの昨年の患者受け入れは12例でした。

時間外・休日の受付患者数は、総数3,922件。うち救急隊受け入れは年間1,191件におよび、そのうち港区506件、品川区429件で、この地元の2区で全体の78%を占めています。これらのうち入院となったものは427件(36%)でした。御自身で救急外来に来院受診された件数は2,731件で、うち249件(9%)が入院されています。科別では、内科系345件、外科系419

件(うち脳外科・心臓外科167件)でした。

港区の休日診療にも参加

今般、港区の休日診療にも内科を中心に参加することが決定し、北里研究所病院、国際医療福祉大学付属三田病院、東京慈恵会医科大学付属病院、東京都済生会中央病院、前田病院、西原病院、古川橋病院とともに9月から参加することが決定しました。毎月第4日曜日は当院が当番病院となります(午前9時から午後5時まで)。これに備えて、当番日時間帯には、内科医師・看護師・薬剤師・放射線技師を1名ずつ加えて専任とし、港区の休日医療の一翼をになっていきます。

ソフト面の充実として研修も

このような地域の救急医療に対応できる組織・体制づくりもさることながら、医療・看護職一人一人の能力をたかめていくことも重要です。院内の研修としてはAED(自動体外式除細動器)が一階外来待合室に配備されたことをふまえて、昨年・今年とAED使用についての講習、さらに看護師・パラメディカルを対象として救急蘇生の基礎についての講習を行いました。今後はAHA(American Heart Association)のBLS(Basic Life Support)をふまえた研修を行っていく予定です。入院患者のなかで複数の基礎疾患(高血圧、虚性心疾患、脳動脈疾患など)を有する高齢の患者さんが増えるなか、救急隊搬送の患者さんに対してだけではなく、院内での急変・心肺停止にも的確に対応できる能力を身につけることをめざしています。今般、7月の病院機能評価機構の受審を契機に、院内各部署の救急カートの整備を行い、器具・薬剤の院内共通化と整理などを行いました。

今後も、地域の住民・勤務者の方々、そして入院中の患者さんに対しても、より充実した救急医療を提供することをめざして職員一同で取り組んでいきたいと思っております。

診療協力部門紹介第4回

中央検査室の紹介

中央検査室技師長 ^{たかはし ひろし} 高橋 弘

中央検査室の概要

せんぽ東京高輪病院中央検査室は、三山検査部長（外科部長）以下検査技師29名（健診午前パート2名含む）、補助2名（検査受付、器具洗浄）の計32名のスタッフで診療部門及び健診部門の検査業務を受け持っています。

診療部門では、生理検査、病理検査、細菌検査、免疫学的検査、生化学的検査、血液学的検査、一般検査、輸血、呼気テスト、採血等を行っております。

健診部門では、超音波（エコー）、心電図、呼吸機能、眼底、聴力、尿一般、尿沈査、採血等を行っており、両部門とも充実した内容のもと幅広い業務を行っております。



採血カウンター

また当院は二次救急指定の病院となっており、技師1名が交代で毎日当直業務も行っていきます。

中央検査室の特徴

当院が平成9年の改築を機に急性期医療を主体とした病院になったこともあり、早期診断、早期治療そして患者様の早期回復のために必要とされる検査を正確かつ迅速に報告できるようスタッフ一同日々努力しています。

血液や尿などの検体系検査においては、オーダリングシステムによる患者様の受付から、採血、採尿、分析、報告まですべて一貫したバーコード管理のもとに、豊富な経験を持った技師が最新鋭の分析機器を駆使して行います。オーダリングシステムとリンクしている検査システムは、当検査室の各分析機器と連動するようカスタマイズされており、病棟からの検体はAM10時までに、外来における診療前検査の検査結果は採血後1時間以内にそれぞれ報告できる体制をとっています。

尿一般、血算、凝固、生化学のスクリーニングはもちろん、梅毒や肝炎ウィルス、HIV等の術前感染症検査、PSA、CEAなどの腫瘍マーカー、BNPやトロポニンなどの心疾患マーカー、甲状腺ホルモンやイ



生化学ライン

ンスリン、婦人科系ホルモン等の検査項目も診療前検査に取り入れることが可能となっています。そしてそれらの豊富な情報をもとに、糖尿病患者様の定期的なデータ管理をはじめ、各種疾患の診断にいち早く対応できるよう、安定した信頼性のある検査結果を提供できるよ



検査室機器

う十分な管理を行っております。

近年、超音波いわゆるエコー検査は、解像力が飛躍的に向上し、診断精度がめざましく高くなってきてお

り、無侵襲であることも相俟っていろんな症例に用いられています。

当検査室の生理部門では、消化器や循環器の日本超音波医学会認定の技師をはじめ、それぞれの分野の経験豊富なベテラン技師を配置し、信頼性の高い検査データを的確に診療側に提供し、早期診断、早期治療に貢献いたしております。

地域医療連絡室との連携

地域医療連絡室との連携では、上記の検査に加え脳波・各種の超音波・睡眠時無呼吸症候群検査（PSG）・脈波伝播速度（PWV）・足関節/上腕血圧比（ABI）等の依頼をお受けし、迅速かつ正確な検査の実施と報告ができる体制をとっております。ぜひご利用ください。

病理部門では、細胞診スクリーナーの資格を有した技師3名を配置し、専任の病理医とともに手術中の迅速診断へのスムーズな対応を心がけています。

また、正確な病理診断を下すための免疫染色の院内での実施、病理解剖（昨年度実績5体）など、手術材料の標本作製や細胞診スクリーニング等のルーチン業務はもちろんのこと、その他充実した内容のもと、正確でなおかついち早く診断結果を提供できるよう努めております。



検査室搬送ステーション

今後とも、全スタッフともども当検査室をご利用いただけることを期待いたしております。

栄養管理室の特徴

栄養管理室長

あだちかよこ
足立香代子

選べる・おいしい・陶器が自慢のせんぼの食事

栄養管理室では、入院という味気なさを避け、家庭での食事に近いこと、おいしい食事であること、早く回復していただけることを



を心がけて食事を作っています。選択食はお正月の2日間を除き毎日、2種類から選んでもらっていること、自画自賛ではありますが各料理の専門家がいること、陶器を使っていることなどは、そんな思いの現われです。



カロリー計算は覚えなくても食生活が改善する方法

栄養相談は、一般に計量やカロリー計算を強要し、一般論を押しつけ、好きなものも平気で奪うので、ストレスになると言われています。そのため行動変容は、一時的にできても継続できないわけです。

当院では、当日の採血結果と体重変動から食生活上の問題点を推測・判断し説明したのち、問題になる箇所のみを今より改善していただけるようお話します。この方法は、簡単に理解しやすいため、多くの方が継続して来院され効果も得られていますし、数



多くの学会発表、書籍の出版、栄養士教育などでも行っており、信頼を得てきたと思っております。

入院後すぐに伺う管理栄養士

看護師は、患者様が入院されて早々の時期に栄養状態のスクリーニングを行い、私どもに連絡してきます。管理栄養士は、翌日にはその結果を持って患者様の病室へうかがい、嚥下や咀嚼機能、食欲低下があるか、食べられない食品や食べにくいものはないか、どのような食品や料理をお出ししたらよいかの知恵をしぼります。例えば、栄養状態が少しでも悪いようなら、栄養価の高い間

食を取っていただくか、少量で栄養量がとれる料理を考えます。

この前に、栄養状態の指標となるむくみや皮膚の状態を観察し、身体計測をして栄養状態を評価します。入院後は、食事が半分以下、栄養必要量の半分以下、アルブミン値が3.5g/dl以下など少しでも栄養状態の悪い患者様には、週に1回必ず伺い、提供させていただいた食事が適正だったかを再評価して、好ましくないようでしたら再度考え直します。

このようなモニタリングを繰り返し行いながら、栄養状態を落とさないように、またよくする努力をしています。もちろん、各



診療科のカンファレンスにも積極的に参加し、主治医および看護師と相談しながら工夫しております。

週1回のNST (Nutrition Support Team) カンファレンスで低栄養状態改善方法を検討

NSTでは、チェアマンの戸田院長、ディレクターの外科の小山管理部長、内科の東郷部長を主軸に看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士、管理栄養士がチームを組んで栄養状態をよくするために栄養状態や栄養ルートなどが問題と思われた患者さまについて白熱したカンファレンスをしています。

管理栄養士は、患者様一人一人の必要栄養量を算出し、経口栄養・経腸栄養・静脈栄養すべての摂取栄養量を把握して情報提供します。食事の摂取率が低い場合は、患者様のところへ伺い、嗜好にあった食品や料理があるか、何が食べられるかを患者様と話し合い、次週までに改善するよう努力しています。

私は、今日一日患者様の役に立てたのだろうか

栄養管理室は、病院理念を遂行できるように「私は、今日一日患者様の役に立てたのだろうか」を標語に掲げ、私たちがかわりながら、常に患者様の栄養状態の改善につながるよう日々反省しつつ、前進してきました。これからも、地域に根づいた病院の一部門と



して患者様の役に立つ栄養管理を行いたいと考えています。

地域医療連絡室からのお知らせ

地域の先生方には、当院の医療連携に対し格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。地域医療連絡室では、各先生からご紹介いただく患者様の予約の受付、受診のご報告、担当医師の診察報告の発送、外来診療の案内など病院の窓口としてスタッフ一同、業務に励んでおります。

近況についていくつかお知らせいたします。

ご紹介書類の改善

地域医療連絡室では、先生方から患者様をご紹介いただく場合、診察・検査の予約が必要な時には「FAX予約診療受付票」を送信していただいております。

また、患者様が来院される際にご持参いただく「紹介・診療情報提供書」も併せてご記入いただいております。

いままでこの2つが別々の用紙になっておりましたので、先生方からは「2回同じ事を記入するために手間がかかる。」「もっと、簡単にできないか。」などのご意見・ご要望がございました。今回、連絡室ではこのご意見・ご要望をうけて、共通事項については複写式にして、記入が1回で済むように改善いたしました。今後はぜひこちらの書式をご利用いただきたいと思います。

新しい「紹介・診療情報提供書 FAX予約診療受付票・兼・案内表」はすでに送付させていただいている先生もいらっしゃいますが、ご入用の際は、地域医療連絡室(03-3443-9576)までご連絡ください。至急送付させていただきます。

また、改善した用紙については、当院のホームページからダウンロードできるようになりましたので、お急ぎの際にはこちらでもご利用ください。(<http://www.sempos.or.jp/tokyo/> 地域医療連絡室のページに掲載されています)

ホームページのリニューアル

当院のホームページについては、昨年、地域の先生方を対象に行ったアンケートでも「見にくい」「内容が貧弱である」などの厳しいご批判をいただいております。地域医療連絡室では医療情報システム係、船員保険情報センターと協力し、今年度当初から皆様のご意見を反映するかたちで、順次リニューアルをすすめているところでございます。

少なかった診療科の紹介も、ほぼ全診療科にわたり掲載しております。各診療科のサイトでは専門分野及び担当医師を紹介して充実をはかっております。

以上、地域医療連絡室からのお知らせでした。今後みなさまのご意見・ご要望にお応えできるよう努力をして参ります。何卒よろしくご依頼申し上げます。

編集後記

比較的過ごしやすかった7月でしたが、梅雨明けとともに厳しい暑さが続いております。

うえーぶ8月号をお届けします。今回は、救急診療について取り上げております。予告なしの病気に備えて救急スタッフはがんばっております。診療協力部門紹介も3回目に入り、中央検査室、栄養管理室をご紹介しました。ご一読いただきご質問などございましたらお寄せいただければ幸甚と存じます。

この暑さもあと少しの我慢です。先生方におかれましては、ご自愛くださるようお願い申し上げます。

外来診療担当一覧表や用紙のダウンロードはもちろんのこと、この「せんぽだより うえーぶ」についても、創刊号から閲覧できるようになっております。

ぜひ一度ご覧いただき、忌憚のないご意見をお寄せくださるようお願い申し上げます。



ホームページ画面

地域医療懇話会・懇親会開催のお知らせ

今回で9回目となる地域医療懇話会の日程が11月11日(土)に決定しました。

開催場所は昨年同様 新高輪プリンスホテルで行います。

詳しい内容及び招待状の発送につきましては9月中旬ごろを予定しております。

今年も多くの先生にご出席いただけるよう職員一同心よりお待ちしております。